

予 算 要 求 資 料

令和5年度当初予算

支出科目 款：農林水産業費 項：農業費 目：園芸特産物対策費

事業名 花きの担い手育成経営・技術支援事業費

(この事業に対するご質問・ご意見はこちらにお寄せください)

農政部 農産園芸課 花き振興係 電話番号：058-239-3163(内115)

E-mail：c11423@pref.gifu.lg.jp

1 事業費 12,809 千円 (前年度予算額： 5,600 千円)

<財源内訳>

区 分	事業費	財 源 内 訳							
		国 庫 支出金	分担金 負担金	使用料 手数料	財 産 収 入	寄附金	その他	県 債	一 般 財 源
前年度	5,600	5,600	0	0	0	0	0	0	0
要求額	12,809	0	0	0	0	0	0	0	12,809
決定額									

2 要 求 内 容

(1) 要求の趣旨（現状と課題）

- ・令和2年に国際園芸アカデミー有識者会議から、花と緑の産業を活性化させるために業界の壁を超えて産学金官が連携する「ぎふ花と緑の振興コンソーシアム」と担い手育成及び産業振興の拠点となる「清流の国ぎふ花と緑の振興センター」の設立について提言を受けた。
- ・令和3年度は、コンソーシアムを設立し、花き振興コンペなど新たな取組を始めるとともに、若手花き生産者等のニーズ調査を行い、振興センターにおける担い手育成支援について検討を行ってきた。
- ・県内花き生産者を維持発展させるためには、これまで支援が行き届かなかった後継者等に対して、基本的な栽培管理の習得から多様な花き品目ごとの課題解決、さらには有利販売を行うための最新の経営情報の提供など、きめ細かな支援が必要となっている。
- ・令和4年度には清流の国ぎふ花と緑の振興センターを設置し、9月から担い手の経営力向上研修を開催した。
- ・令和5年度は経営力向上研修に加えて、花き栽培の基本技術やDX技術の習得を目標とした技術研修会を開催することとしている。
- ・またコロナ禍における花きの需要の変化に対応した商品開発など、花きの生産・振興を図るには、担い手の経営発展・技術向上の支援が必要である。

(2) 事業内容

花きの担い手を対象とした、経営・技術支援の研修を開催 12,809千円

○経営力向上研修

経営計画の立案、経営発展のための将来ビジョンの策定方法や、ソーシャルネットワークサービスを活用した販売方法などを学ぶ研修を開催する。

○栽培技術研修

岐阜県育成品種のフランネルフラワー等を使い、基本技術の習得から、課題解決、温室内の環境測定データをリアルタイムに把握し、栽培管理に活用するDX技術を習得する研修会を開催する。

(3) 県負担・補助率の考え方

清流の国ぎふ花と緑の振興センターは、経営感覚に優れた花きの担い手育成と花き産業の振興の拠点施設であり、県が負担することが妥当である。

(4) 類似事業の有無

無

3 事業費の積算 内訳

事業内容	金額	事業内容の詳細
報償費	1,121	技術研修外部講師、研修企画審査員報償費
旅費	242	外部講師旅費、研修企画審査員旅費、業務旅費
需用費	4,103	肥料農薬資材費、燃料費、光熱水費、事務用品、印刷製本費
役務費	402	通信費
委託料	5,831	経営力向上研修開催委託、測定器校正委託
その他	1,110	備品購入10台、会議室使用料
合計	12,809	

決定額の考え方

4 参考事項

(1) 各種計画での位置づけ

清流の国ぎふ花き振興計画 (R3～R7)

国際園芸アカデミー有識者会議報告書 (令和2年度)

岐阜県デジタル・トランスメーション推進計画 (R3～R7)

(2) 国・他県の状況

国では、花き振興法に基づく基本方針を令和2年に見直し、暑熱対策やスマート農業技術の導入などの栽培技術の向上により、生産者の経営安定を図っていくこととされた。

(3) 後年度の財政負担

清流の国ぎふ花と緑の振興センターは県が設置する組織であり、花きの担い手育成のための経営・技術研修実施に関して、県が継続して財政負担する必要がある。

(4) 事業主体及びその妥当性

県の組織であり、県が事業主体となることが妥当である。

事業評価調査書（県単独補助金除く）

新規要求事業

継続要求事業

1 事業の目標と成果

（事業目標）

・何をいつまでにどのような状態にしたいのか

清流の国ぎふ花と緑の振興センターが開催する花きの担い手を対象とした、経営や技術の研修により、県内花き生産者の経営安定、花き生産の振興を図る。

（目標の達成度を示す指標と実績）

指標名	事業開始前 (R2)	R3年度 実績	R4年度 目標	R5年度 目標	終期目標 (R7)	達成率
花き産出額	47億円	48億円	64億円	66億円	70億円	69%

○指標を設定することができない場合の理由

（これまでの取組内容と成果）

令和2年度	<p>・取組内容と成果を記載してください。</p> <p>指標① 目標：___ 実績：___ 達成率：___ %</p>
令和3年度	<p>コロナ禍により、冠婚葬祭の花きの業務需要が著しく減少した中で、個人消費向け商品開発により、花き需要が高まり、産出額は前年より1億円増加し、48億円となった。</p> <p>指標① 目標：70億円 実績：48億円 達成率：69 %</p>
令和4年度	<p>令和6年度当初予算にて追加</p> <p>指標① 目標：___ 実績：___ 達成率：___ %</p>

2 事業の評価と課題

(事業の評価)

・事業の必要性(社会情勢等を踏まえ、前年度などに比べ判断) 3：増加している 2：横ばい 1：減少している 0：ほとんどない	
(評価) 3	経営感覚に優れた花きの担い手を育成することで、花きの高品質生産が図られ、生産・振興につながるため、事業の必要性は高い。
・事業の有効性(指標等の状況から見て事業の成果はあがっているか) 3：期待以上の成果あり 2：期待どおりの成果あり 1：期待どおりの成果が得られていない 0：ほとんど成果が得られていない	
(評価) 2	コロナ禍での花き需要は、業務需要から個人消費の増加と変化しており、花きの担い手育成の事業の継続は有効である。
・事業の効率性(事業の実施方法の効率化は図られているか) 2：上がっている 1：横ばい 0：下がっている	
(評価) 1	初年度の取組みのなかで、オンライン研修講座もあり、事業効率化が図られている。

(今後の課題)

・事業が直面する課題や改善が必要な事項 コロナ禍による花きの冠婚葬祭等業務需要の減少や家庭用需要の拡大など花きの需要の変化に対応する担い手育成が必要がある。

(次年度の方向性)

・継続すべき事業か。県民ニーズ、事業の評価、今後の課題を踏まえて、今後どのように取り組むのか 県内の花と緑の産業の振興拠点として、花きの需要の変化に対応するなど、経営感覚に花きの担い手の育成及び基本技術からDX技術の習得により生産振興を図る。
--